

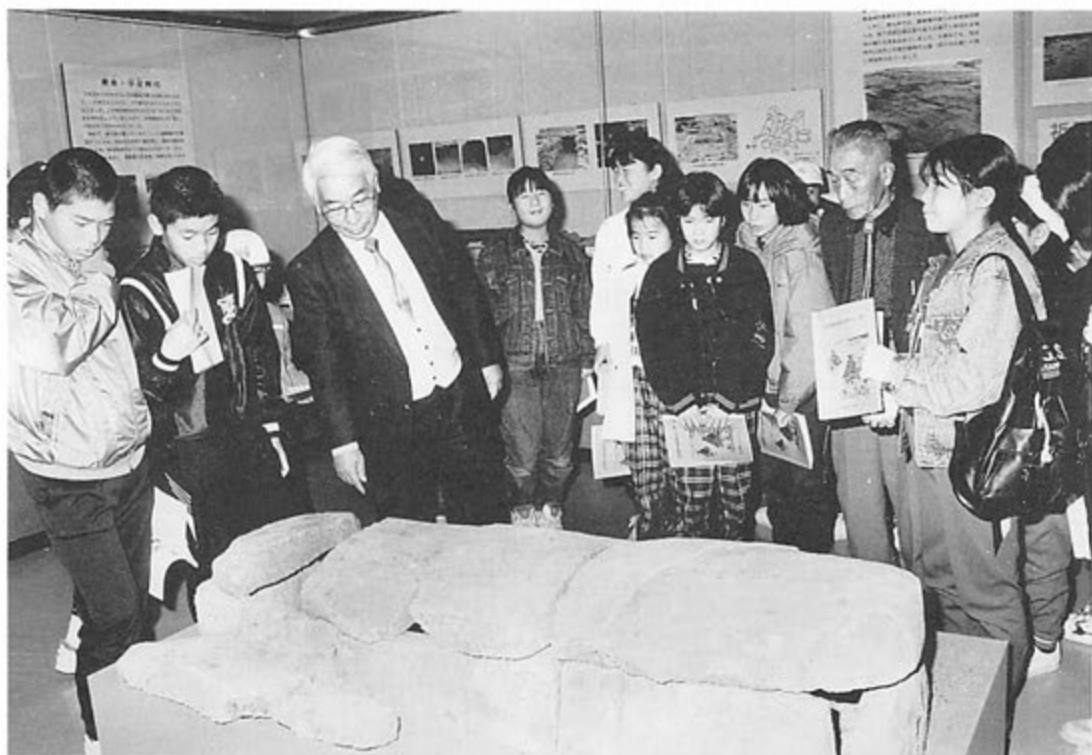


埋文だより

第2号

Archaeological News

平成5年2月10日発行



軽石石棺の説明に感動する団体見学者

郷土の先人と感動の出会いを!

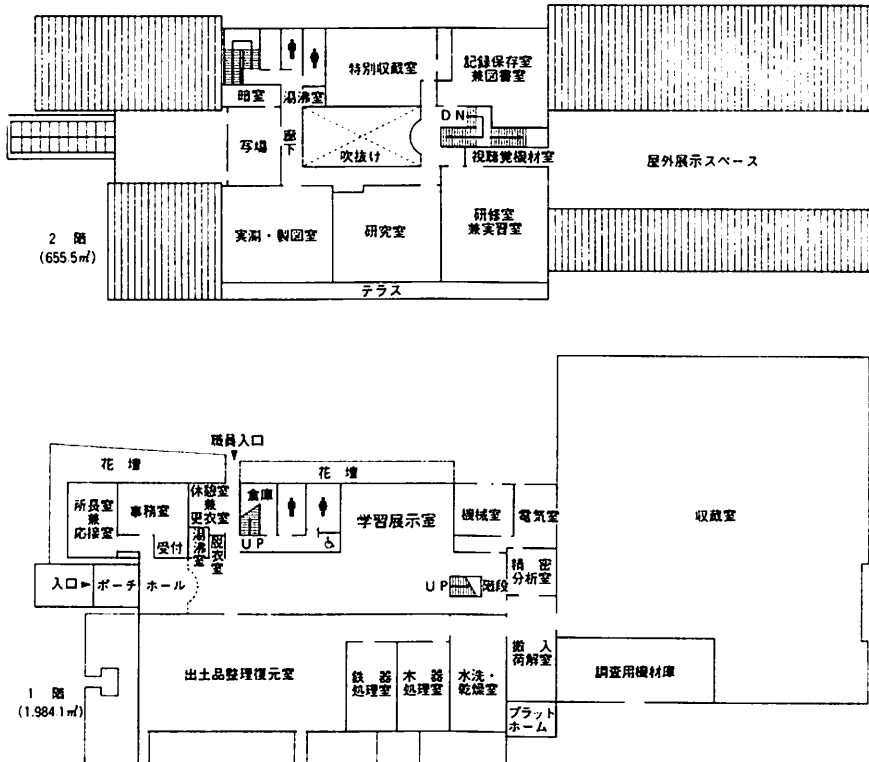
県立埋蔵文化財センターは、本県文化づくりの拠点として、広く県民の皆様への学習や研修、文化財保護やその啓発活動に努力しております。

1万年以上昔からの生活道具や住いを発掘・整理・分析して古代の郷土鹿児島を復元し、祖

先と会話が交わせる感動の場になっております。

当センターは、県民の皆様と御一緒に、文化財の保護活動を通して郷土愛の心養と文化の香り高い郷土づくりにまい進し、心豊かな人づくりに貢献します。来所をお待ちしております。

施設の概要



○建物の概要

- ・敷地面積 5,816㎡
- ・建物延床面積 2,640㎡
- 1階 1,984㎡ 2階 656㎡
- ・建物の構造 鉄筋コンクリート2階建

○主な設備

- ・学習展示室
 - ・発掘調査・遺物整理の手順
 - ・地層剥ぎ取り標本
 - ・県内の主な遺跡地図（点灯式）
 - ・速報展示コーナー
 - ・遺物展示
 - 旧石器時代から江戸時代まで、各時代別と、奄美の文化を展示。

○収蔵室

- ・遺跡別に、パンケース2万余箱を収蔵

○精密分析室

- ・走査型電子顕微鏡 ・X線分析装置
- ・真空蒸着装置 ・赤外線カメラ
- ・光学顕微鏡 ・実態顕微鏡

○鉄器処理室

- ・減圧含浸装置 ・X線撮影装置
- ・純水製造装置 ・高温乾燥機
- ・ウォーターバス

○木器処理室

- ・PEG含浸装置
- ・大型水槽

「古代とのふれあい」

平成4年7月30日(木)～31日(金)、当センターの見学、原始体験学習、遺跡発掘体験などを通じて埋蔵文化財や郷土の歴史への関心と理解を深めるために行われました。参加者は小・中学生とその保護者112人でした。

1日目は、当センターの見学、古代人の生活の映画や石器づくり実演の見学、軽石での勾玉づくり、ミニ土器づくり等を行いました。軽石の勾玉は、2日間首にかけてトレードマークとするため、みんな形のいい勾玉を作ろうと一生懸命でした。また、ミニ土器づくりは、大人も子供も真剣そのもので、粘土紐を上手に積み上げられなくて何度もやり直したり、撚糸や貝殻を使ってきれいな文様をつけたり、縄文人に負けじと頑張っていました。夜は、県立青少年研修センターでキャンプをしました。自分たちでテントを立て、夕食はカレーをつくり、そのあと「卑弥呼の国の火まつり」を行いました。

参加者は対馬国・一支国・末盧国・伊都国・奴国・不弥国・投馬国の7国に分かれ、邪馬台国の卑弥呼から火をもらい、楽しいひとときを過ごしました。



2日目は、国分市の上野原遺跡で、遺跡の現状や発掘の仕方などの説明をうけた後、いよいよ発掘に挑戦しました。この日は、30度を越えるとても暑い日でしたが、子供たちは汗を流しながらも、必死にねじり鎌や移植ゴテを動かす、土器が見つかる、「あつー」と歓声をあげていました。子供たちの目はとても輝いていました。

その後、参加者には古代のイメージ画を書いてもらい、その中で優秀な作品は文化財強調週間(11月1日～7日)のポスター原図として採用し、県下各関係機関に配布しました。

過去から未来へ 文化の道しるべ
——文化財を大切に——



文化財保護強調週間
平成四年七月一日～七日

鹿児島県教育委員会

〈参加した子供たちの作文より〉

- ◎センター見学はとてもワクワクしました。小さな匙やお皿が古代の人々の手によって作られ使われたのだと思うと、当時から生活をよくしようとするために、努力したり工夫したりしたんだなあと思いました。
- ◎土器づくりをしました。私は、「大丈夫。私にも作れそうだ」と思っていたけれど、形をつくるのもコツがいりました。あまり薄くつくとつぶれるのです。私は古代人ってとても器用だったんだなあと思いました。
- ◎一番の思い出は火まつりでした。火をつけるとあつという間に赤く燃え上がり、暗やみから明るい世界になりました。昔の人々も火を大切に、このような儀式をしたのかなあと思うと感動しました。
- ◎広い畑みたいところで発掘をしました。発掘をしている人は、昔の人々の生活の様子を残すために大変な仕事をしているんだなあと思いました。掘るたびに土器がでてくるんじゃないかとドキドキしました。そして、見つけたときには、とてもうれしかったです。

2日間のいろいろな体験を通して、子供たちは古代人の生活にふれることができました。

夏休み一番の思い出になった人も多かったようです。

開所記念講演会から（その2）

平成4年8月22日

道具と人間～斧を中心として～

奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長 佐原 眞先生

佐原先生は埋蔵文化財センター長としての要職のかたわら、全国各地からの依頼を受けて発掘指導や講演等にお忙しい毎日です。

今回の講演は、ヨーロッパからオセアニアまでを舞台に、人類誕生から現代までの道具の発達と、その影響をテーマとするものでした。

お話しは「斧や鎌等の道具を自分で使ったことがありますか」という、会場とのやり取りで始まり、錐に例をとって、日本の道具の特質を説明されてから、斧の話へと移り、当センターで複製した石斧を使って、縦斧・横斧の違いやその使い方について身振り交じりの解説がありました。

そして、ニューギニアとオーストラリアの先住民における石斧から鉄斧への変化という例を引かれて、道具の進歩が人間の生活にどんな影響を及ぼしたかという本題に入りました。

オーストラリアのイルイヨント族は「道具の進歩によってできた浮いた時間」を寝て過ごしたという例から、「人間が道具を進歩させた本当の理由はこれが目的ではなかったろうか、物の豊富さを求めて戦いを招くことは目的ではなかったはずだ。また、日本人の『働くことは美德』という考えは、そろそろ考え直す必要があるのではないか」と、締めくくられました。

南九州の古墳文化の特色

鹿児島県考古学会会長 河口 貞徳先生

河口先生は、南九州の考古学研究の先駆者としての長い経験と深い学識をもって県の考古学界をリードしてこられました。そして、鹿児島県考古学会会長として、また県文化財保護審議会委員として、県の考古学会発展と文化財保護のために御活躍されています。

今回は、そのような先生の幅広い研究成果の一端として、「南九州の古墳文化の特色」と題して講演していただきました。

まず冒頭、「弥生時代後期の空白の時期に比べ、古墳時代に入って、集落等の遺跡が急激に増加する。」というところで驚かされました。

次いで、「成川式土器は土師器と異なり、職業集団（土師部）による生産ではなく、弥生土器と同様に共同体社会内部の生産であり、文様の発達も見られる」という興味深い話でした。

続いて、スライドを映写されながら、多くの遺跡の実例に基づいて、「南九州の古墳文化は二重構造である。それは、在地勢力の首長たちを取り組む形で畿内勢力が進出したが、その支配は社会の下部構造まで及ばず、独自の社会のままであった。」ということを力説されました。

また、スライド説明の中で、朝鮮半島からの影響を示唆されたりもして、南九州の古墳文化の特色が実感できた講演でした。



狩りの工夫 — おとし穴

縄文時代の貝塚からは、多くの貝殻に混ざってシカやイノシシの骨が出てきます。これらの骨は割られた状態で見つかりますので、縄文人によって食べられたことがわかります。では、縄文人達はいったいどのようなやり方でこれらの動物を捕らえていたのでしょうか。

現在のイノシシ狩りのやり方をみると、猟犬にイノシシを追わせて鉄砲でしとめるという方法があります。また、イノシシの通り道にワナを仕掛けておいてイノシシが掛かるのを待つという方法もあります。現在の鉄砲に代わるものとして、縄文時代の遺跡からは矢の先に取り付ける石鏃がたくさん見つかります。さらに、イヌを丁寧に埋葬した例もありますので、イノシシをイヌに追わせ、弓矢をかまえた縄文人が繁みでじっと息をひそめている姿が想像できます。

それでは、ワナに相当するものは縄文時代にはなかったのでしょうか。現在発掘中の上野原遺跡での様子を見てみることにしましょう。上野原遺跡は国分市上之段にあり、眼下に錦江湾を臨む標高約260mの台地上に位置します。今からおよそ3,500年ほど前の地層から人工的に掘られた穴が、100基以上も見つかっています。その内の20数基が写真のように深さが1 m 20cmを超す深い穴なのです。穴を上からのぞくと、直径が1 m 20cmの円形をしていて、地表面からの深さは1 m 50cmもあります。さらに穴の底に



小さな穴があいているのがわかるでしょうか。このような深い穴は何のために掘られたのでしょうか。水を得るための井戸だと考えた人もいるかもしれませんが。また、死んだ人を埋葬するお墓だと考えた人もいるでしょう。しかし、穴に埋まった土の重なり具合を注意深く観察してみると、水が溜まったときにみられる砂の層がみられません。大雨が降った後も雨水は全部しみ込んでしまって全く溜まりませんでしたので、井戸とは考えられません。また、お墓だとすればすぐ土を埋め戻しますので土が混ざり合っているはずですが、ここの穴は自然に堆積した様子しかみられません。お墓でもなさそうです。

では、いったいこの穴は何なのでしょう。神奈川県などで発見された例と比較すると、似通ったところが多くあります。穴が深く狭いこと、底に穴があいていることなどは全く同じです。最近まで実際に使われていた事例から、動物を



捕るためのおとし穴ではないかと考えられています。深く狭い穴は一度おちた獲物はいき出さないように工夫してあります。底の穴には先の尖った棒を打ち込んでおき、獲物がおち込んできたときに傷つくようにしたか、あるいは空間をさらに狭くすることによって動物が身動きできないように工夫したものだそうです。縄文時代の人々もシカやイノシシなどの動物が通りやすい場所に穴を掘り、草や木で穴の表面を覆い隠し、獲物がワナに掛かるのを待っていたのでしょうか。鹿児島県内では上野原遺跡の他に、志布志町倉園B遺跡・枕崎市奥木場遺跡・末吉町土合原遺跡でおとし穴と考えられる穴が見つかっています。

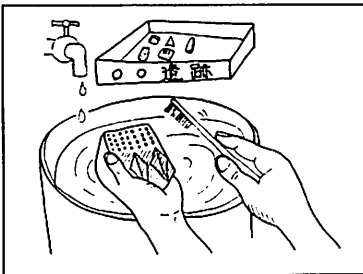
水洗い・注記

土の中にはいつている遺物は、発掘調査によって出土位置を記録され、取り上げられます。これらは、出土区や採集日などごとに分けてポリ袋に梱包され、埋蔵文化財センターに持ち込まれますが、ほとんどのものに泥がこびりついていますので、文様や製作順序・技法などをはっきり見るために、泥落としが行われます。

まず、他のポリ袋と混ざらないように、ひとつひとつの袋を分けてザルなどに広げます。泥のいっぱい付いたものは水洗いの前に軽くハケで泥落としをします。

次に水洗いにはいります。バケツやタライの中でハケを用いて、ひとつひとつ泥落としをしますが、この時に、やわらかい土器は気をつけないと溶けてしまうことがあります。このようなものは、かわいたままで泥を落として、薬品(バインダーなど)を使ってこわれないように強化します。こうしたものは出土した状態の時あるいは水洗いの前までに見きわめる必要があります。また、土器の中には朱やベンガラで色を塗ったものがあります。これも強くこすると脱色するものがあります。水洗いの時にはこうしたものをおとさないように細心の注意が必要です。土師器のなかには墨で字や絵のかかれたものもあります。かわけば見にくいものでも、水につけるとくっきりと浮き出てきます。この時に見逃すと見落とす可能性がありますので、見逃さないよう十分に気をつけて洗わねばなりません。

この他、もみ痕や昆虫の圧痕などの残っている土器も水洗いの時に見つかりますので注意して洗いたいもの



です。水洗いは平たい部分だけでなく、接合面も丁寧に洗います。ここに土がつまったままですと、土器の接合作業の時にぴったりくっつかないだけでなく、製作順序・技法などを観察する時に見にくくなります。石器の細かい使用痕などを観察するにはハケを用いると新しい傷がつく可能性がありますので、超音波洗浄器に入れ、音波を用いて泥などを除去します。

洗い終わった遺物は自然乾燥させます。外で乾かす場合には、風によってカードなどが飛ばないように気をつけなければなりません。洗浄後、再び袋に入れる時には十分に乾かせて入れないと、あとでカビなどはえる原因になります。

埋蔵文化財センターでは、広さ57.5㎡の水洗・乾燥室で水洗いの作業をしています。へやの両側にある流し台にはあわせて24の水道蛇口があります。多い時にはすべての蛇口が使われるほど多くの出土品がまとまって搬入され、水洗いの作業が行われています。へやの中央には干し台があって、洗い終わった遺物はここで乾燥させます。天気の良い日は外の庭で干すこともあります。

水洗い及び乾燥が終わったら、あとでカードが腐ってどこで出たかわからなくなったりするのを防いだり、接合するために各地点のものを混ぜるため、あとで出土地点が不明とならないようにするため、1個1個に出土した遺跡名、出土地点などを記入していきます。土器などには墨汁を用い小筆で、黒っぽい黒曜石などには白の絵の具を用いてペン先で書きます。ガラス質の石や軟質の土師器などあとで手でさわると書いた所が消えてしまうようなものには、上にニスやマニキュアなどを塗布しカバーします。写真撮影の時にあまり目立たないように、小さく目立たない所に記入します。

発掘調査紹介(2)

横峯C遺跡

種子島の南種子町横峯C遺跡は、農地整備に伴って発掘調査されました。西に屋久島を臨む標高120mの台地上にあります。鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰層の直下から縄文時代早期の遺物が出土し、集石遺構が6基検出されました。土器は従来縄文時代前期に位置づけられていた「苦浜式」といわれる、条痕文に瘤や突帯をもつ土器で、今回の発掘でその編年位置が確定しました。石鎌・石匙・磨石・凹石・敲石・石皿などの石器も出土しました。

さらに下層を確認するためのトレンチで、始良カルデラ起源の黄色パミス（約22,000年前）の下にある一般に「タネⅣ」といわれる火山灰層のさらに下（縄文時代早期層から約1m50cm

下）から角礫による礫群が2基検出されました。調査した1基は20cmほどの掘り込みに、炭化物を伴うものでした。この2基の礫群は、22,000年前をさらに逆上ると考えられ、現在放射性炭素で年代を測定中です。



最新の出土品から(2)

磨製石槍〈日置郡松元町前原遺跡〉

平成3年から調査を行っている前原遺跡では縄文時代早期（約9,000年前）を主に多くの遺構・遺物が発見されています。

遺構は、住居跡16、集石17、土坑は200以上見つかっていて当時の生活の跡がしのべれます。また、多くの土器や石器も出土しています。その石器のなかに2点の石槍が見つっています。ひとつは木葉形をしたもので、旧石器時代から縄文時代早期に多く見られますが、完形品の出土は本県では初めてです。



もうひとつは、長さ20.3cm、最大幅3.5cm、厚さ1.2cmで重さ100gの全面を丁寧な研磨によって整形した石槍です。断面は偏平なレンズ状で、先端は鋭く縦方向の研磨の跡がみられます。側辺部は鋭く、基部に近い部分には側辺にえぐりがあります。

石材は灰青色をした頁岩が用いられています。磨いた石器としては、石斧が旧石器時代からみられ、弥生時代まで続きますが、石槍は旧石器時代にはみられません。今まで、磨いた石槍は、縄文時代早期の押型文土器に共伴したものが、長崎県岩下洞穴から人骨と一緒に発見されています。前原遺跡から発見された石槍はそれよりも古いものです。磨かれた石槍では、日本で最も古く、よく整形されて石槍と言えます。また、すぐそばに砥石が発見されています。この砥石は仕上げ用の砥石と思われるのですが、磨製石槍と共伴したことは大変重要なことと思われます。

自由にできごと

- ◎ 埋蔵文化財長期研修講座
受講者7名(東市来町, 宮之城町, 大口市, 蒲生町, 栗野町, 吉松町, 吾平町)
昨年8月3日に始まった6か月間の研修講座も無事終わり, 1月29日に閉講式がありました。

- ◎ サタデープラン
1月9日(土) 参加者21名
(定員40名)
今回は, 「古代の火おこしにチャレンジ」というテーマでした。ヒキリ板と呼ばれる偏平な板に, ヒキリキネと呼ばれる棒状の木をこすりつけるモミギリ式という手法でやりました。参加した子供たちは火を起こそうと必死でヒキリキネを回転させ, 最初はなかなか火が付きませんでした, そのうち慣れてきて多くの人が火おこしに成功しました。

これからの予定

- ◎ サタデープラン
学校週5日制に伴う第2土曜日のひと時を古代と対話してみませんか。
・2月13日(土)
「土器の復元にチャレンジ」
・3月13日(土)

「拓本で土器の文様をみてみよう」
<各回10時~11時30分, 14時~15時30分の2回>

- ◎ 技術研修講座
市町村の埋蔵文化財専門職員の研修
・3月18日(木), 19日(金)
<現地研修, 事例研究他>

見学に来られませんか!

これからの発掘調査

当センターでは3月までの予定で下記の遺跡を調査しています。見学される時は, 各々の調査事務所へ連絡してからおいで下さい。

- ◎上野原遺跡(国分市上之段上野原テクノパーク)
事務所: 0995-46-9909
・縄文時代早期を中心に, 土器・石器のほか蒸し焼き調理のあとと思われる集石や, おとし穴状の遺構等が多数発見されています。
- ◎前原遺跡(松元町福山字前原)
事務所: 0992-78-4469
・縄文時代早期の竪穴住居跡, 集石, 土坑のほか, 土器や石器が多数発見されています。
- ◎朽堀遺跡(松元町石谷字朽堀)
事務所: 0992-78-4410
・旧石器時代や縄文時代早期の土器や石器が多数出土しています。

【Contents】

We'll encounter the great wisdom of our ancestors here.
Information about the Institute.
The 1992 program at the Institute included.
「Encounter our ancient past」
Special lectures by guest speakers. (Part2)
A way of hunting — Pitfalls.
Arrangement of Artifacts. (Part1)
— Washing · Numbering —
The site under excavation. (Part2)
— Yokomine Site —
Artifacts most recently unearthed. (Part2)

— Polished stone spear —
Highlights from the Institute past.
Our schedule.
Won't you visit here?
— Our excavation schedule —

埋文だより 第2号

鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-56
鹿児島県始良郡始良町平松6252
TEL 0995(65)8787
FAX 0995(65)8117